

第3回 情報モラル教育指導者セミナー

—自ら考える情報モラル教育の授業実践—

常葉大学教育学部
准教授 酒井 郷平

酒井 郷平 (さかい きょうへい)

博士（教育学）／常葉大学教育学部 准教授

専門分野：教育工学，情報教育（特に，情報モラル教育）

▶経歴

2018年3月 静岡大学大学院教育学研究科修了

東洋英和女学院大学助教，講師，常葉大学講師を経て，現職

▶主な委員等

文部科学省委託事業情報モラル検討委員会委員（2018年～現在）

文部科学省学校DX戦略アドバイザー（2022年～現在）

情報モラル教育の位置づけ

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編
第2節 教育課程の編成 1各学校の教育目標と教育課程の編成(第1章第2の1)
学習の基盤となる資質・能力(第1章第2の2の(1))

(1) 各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

情報活用能力(情報モラルを含む。)

情報を上手に活用する力 + リスクに対応する力

情報モラル教育の位置づけ

A 「情報活用の実践力」 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

B 「情報の科学的な理解」 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

C 「**情報社会に参画する態度**」 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、**情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度**

「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議 第1次報告」

情報モラル教育の目的の先には、
「**情報社会に参画する態度**」の育成も含まれている。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編より

情報モラルとは、「**情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度**」であり、具体的には、他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解することなどである。

このため、情報発信による他人や社会への影響について考えさせる学習活動、ネットワーク上のルールやマナーを守ることの意味について考えさせる学習活動、情報には自他の権利があることを考えさせる学習活動、情報には誤ったものや危険なものがあることを考えさせる学習活動、健康を害するような行動について考えさせる学習活動などを通じて、生徒に情報モラルを確実に身に付けさせるようにすることが必要である。その際、情報の収集、判断、処理、発信など**情報を活用する各場面での情報モラルについて学習させる**ことが重要である。

情報モラル教育の位置づけ

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編より

また、情報技術やサービスの変化、生徒のインターネットの使い方の変化に伴い、学校や教師はその実態や影響に係る最新の情報の入手に努め、それに基づいた適切な指導に配慮することが必要である。併せて生徒の発達段階に応じて、例えば、インターネット上に発信された情報は基本的には広く公開される可能性がある、どこかに記録が残り完全に消し去ることはできないといった、情報や情報技術の特性についての理解に基づく情報モラルを身に付けさせ、**将来の新たな機器やサービス、あるいは危険の出現にも適切に対応できるようにすることが重要である。**

さらに、情報モラルに関する指導は、道徳科や特別活動のみで実施するものではなく、**各教科等との連携や、さらに生徒指導との連携も図りながら実施することが重要である。**

「トラブルが起きた時に対応する」生徒指導的な方法だけではなく、各教科等と連携し、新たなリスクへの対応力も育てていくことが大切

情報モラル教育のニーズの高まりと教育コンテンツの増加

子どもたちの情報端末に関するトラブルの増加や
道徳の教科化に伴い、学校で情報モラルを取り組む機会も増加



文部科学省
「情報化社会の新たな問題を考えるための教材
～安全なインターネットの使い方を考える～」

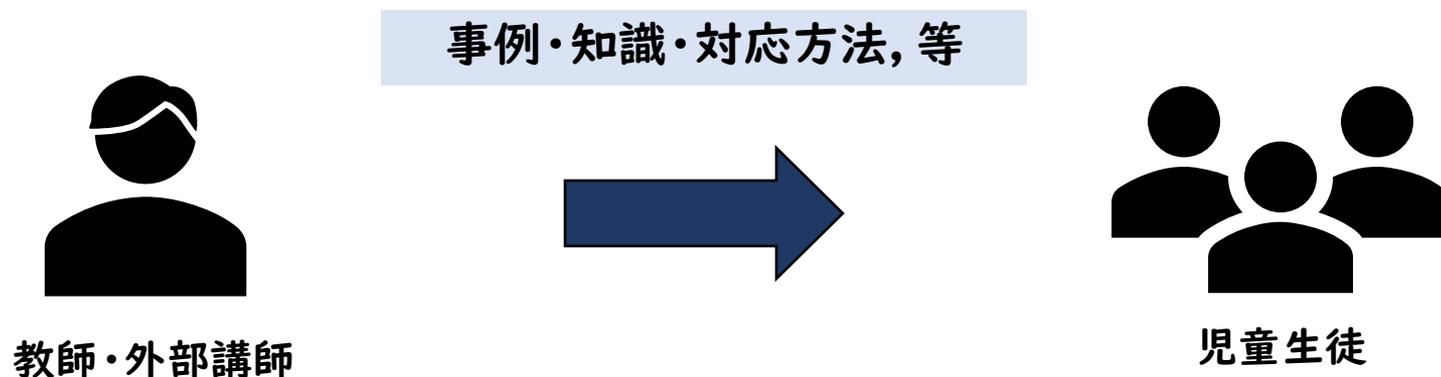


LINEみらい財団
「GIGAワークブック」

以前に比べ、情報モラル教育を実施する環境は整いつつある

情報モラルを“教える”ことの課題

“フェイクニュースに騙されないように気をつけよう”で、
今後の新たなトラブルへの対応力は身につけられるのか？

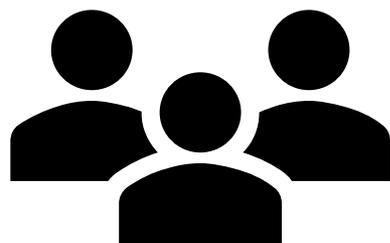


情報モラル教育の中で、子どもたちは教師や外部講師に対して、
受け取り側の視点からのみ学んでいたのでは？

探究的に情報モラルを考えていく必要性

情報モラルを“探究”していく学び

“どんな人がフェイクニュースに騙されるのか？”を
考えることで、新たなトラブルへの対応も考えられるのでは？



児童生徒

情報を活用する側
としての働きかけ



社会・市民

情報社会に参画する立場として、情報を活用するということは、
何がリスクになりうるかを考え、自ら働きかけることが重要なのでは？

本プロジェクトの概要

情報モラル教育推進事業

優秀作品は
文部科学省で
チャンネルで公開

情報モラル の輪を広げよう プロジェクト

30秒～60秒のショート動画作成

募集テーマ

日常生活で **偽・誤情報** に
騙されないために、どのよう
にすればよいか。



みんなの動画を
キミの動画で
ドーン！

参加対象

- 小学校、中学校、高等学校に
所属する児童生徒
(義務教育学校、中等教育学校、
特別支援学校の児童生徒に関し
ては、年齢相当の学校種の応募
資格を有する。)
- 学校単位の申込
(1校あたり最大40作品)

表彰・結果発表

- 小学校、中学校、高等学校それぞれ
優秀作品を2作品選定
- 結果発表…令和7年2月頃

申込締切

8.30 FRI

動画提出締切

10.31 THU

文部科学省学校デジタル化プロジェクトチーム
情報教育振興室 digital-pt@mext.go.jp



文部科学省

本プロジェクトの趣旨

■ 募集テーマ

日常生活で偽・誤情報に騙されないために、どのようにすればよいか。

○ 対象

小学校, 中学校, 高等学校に所属する児童生徒

(義務教育学校, 中等教育学校, 特別支援学校の児童生徒に関しては, 年齢層との学校種の応募の資格を有する。)

○ 審査・表彰

情報モラルに関するテーマを設定し, **児童生徒からテーマに応じたショート動画(30秒~60秒)の募集及び審査**を実施する。

小中高の各2本を優秀賞として, MEXTCHANNELに公開する。

児童生徒が**情報モラル**を啓発する側となり, **自ら働きかける機会**に

本日のご登壇者

ひがしこうじや
東京都大田区立東糀谷小学校

しんぼ
眞保 先生

かみそしがや
東京都上祖師谷中学校

いけだ
池田 先生

はままつえのしま
静岡県立浜松江之島高等学校

かち
可知 先生

～本日お伺いしたいこと～

本プロジェクトにご参加いただいた学校の先生として、

- どのような時間（授業・クラブ活動・宿題等）を利用されたのか？
- このプロジェクトに参加するにあたり指導で工夫されたことは？
- このプロジェクトに参加した児童生徒の反応は？
- 普段の情報モラル教育の様子、苦勞されていることは？ など・・・

パネルディスカッション

本日のご登壇者

東京都大田区立東糀谷小学校 眞保 先生

→LINEによるトラブル増加, 話し合いながら作成

東京都上祖師谷中学校 池田 先生

→部活動で実施, 動画を作成する動機付け

静岡県立浜松江之島高等学校 可知 先生

→学校の実態に即して, 探究プロセスと合わせて実施

先ほどのご発表をふまえて考えたいこと

- ① 今回のプロジェクトの教育課程上の位置づけは？
(発達段階や教科との関連をどう考慮すれば・・・)
- ② 今回のプロジェクトの負担感は？
(情報モラル教育にはどうしても負担が・・・)
- ③ 子どもたちの情報モラルに関するトラブルの様子は？
(他の学校ではどんなトラブルが起きているの・・・)
- ④ 普段の情報モラル教育はどうしている？
(子どもたちが主体的に取り組むには・・・)
- ⑤ 他の先生との連携は？学校全体で取り組むためには？
(自分はやりたいけど、他の先生が乗り気じゃない・・・)

先ほどのご発表をふまえて考えたいこと

- ① 今回のプロジェクトの教育課程上の位置づけは？
(発達段階や教科との関連をどう考慮すれば・・・)
- ② 今回のプロジェクトの負担感は？
(情報モラル教育にはどうしても負担が・・・)
- ③ 子どもたちの情報モラルに関するトラブルの様子は？
(他の学校ではどんなトラブルが起きているの・・・)
- ④ 普段の情報モラル教育はどうしている？
(子どもたちが主体的に取り組むには・・・)
- ⑤ 他の先生との連携は？学校全体で取り組むためには？
(自分はやりたいけど、他の先生が乗り気じゃない・・・)

先ほどのご発表をふまえて考えたいこと

- ① 今回のプロジェクトの教育課程上の位置づけは？
(発達段階や教科との関連をどう考慮すれば・・・)
- ② 今回のプロジェクトの負担感は？
(情報モラル教育にはどうしても負担が・・・)**
- ③ 子どもたちの情報モラルに関するトラブルの様子は？
(他の学校ではどんなトラブルが起きているの・・・)
- ④ 普段の情報モラル教育はどうしている？
(子どもたちが主体的に取り組むには・・・)
- ⑤ 他の先生との連携は？学校全体で取り組むためには？
(自分はやりたいけど、他の先生が乗り気じゃない・・・)

先ほどのご発表をふまえて考えたいこと

- ① 今回のプロジェクトの教育課程上の位置づけは？
(発達段階や教科との関連をどう考慮すれば・・・)
- ② 今回のプロジェクトの負担感は？
(情報モラル教育にはどうしても負担が・・・)
- ③ 子どもたちの情報モラルに関するトラブルの様子は？
(他の学校ではどんなトラブルが起きているの・・・)**
- ④ 普段の情報モラル教育はどうしている？
(子どもたちが主体的に取り組むには・・・)
- ⑤ 他の先生との連携は？学校全体で取り組むためには？
(自分はやりたいけど、他の先生が乗り気じゃない・・・)

先ほどのご発表をふまえて考えたいこと

- ① 今回のプロジェクトの教育課程上の位置づけは？
(発達段階や教科との関連をどう考慮すれば・・・)
- ② 今回のプロジェクトの負担感は？
(情報モラル教育にはどうしても負担が・・・)
- ③ 子どもたちの情報モラルに関するトラブルの様子は？
(他の学校ではどんなトラブルが起きているの・・・)
- ④ 普段の情報モラル教育はどうしている？
(子どもたちが主体的に取り組むには・・・)**
- ⑤ 他の先生との連携は？学校全体で取り組むためには？
(自分はやりたいけど、他の先生が乗り気じゃない・・・)

先ほどのご発表をふまえて考えたいこと

- ① 今回のプロジェクトの教育課程上の位置づけは？
(発達段階や教科との関連をどう考慮すれば・・・)
- ② 今回のプロジェクトの負担感は？
(情報モラル教育にはどうしても負担が・・・)
- ③ 子どもたちの情報モラルに関するトラブルの様子は？
(他の学校ではどんなトラブルが起きているの・・・)
- ④ 普段の情報モラル教育はどうしている？
(子どもたちが主体的に取り組むには・・・)
- ⑤ **他の先生との連携は？学校全体で取り組むためには？**
(自分はやりたいけど、他の先生が乗り気じゃない・・・)

大人がリスクを教えていく情報モラル教育だけでよいのか？

(小学校)

- ・発信を制限する以上に、発信のメリットとデメリットを話し合う
- ・「使うこと＝リスク」ではなく、**より具体的な場面や状況を想像させることが大切なのは？**
- ・年間指導計画, 情報モラル週間→**習慣化させ, きっかけづくり**

(中学校)

- ・部活動として、**情報モラルのリーダー的な立場を育成**
- ・生徒自らが台本や構成を考える→視聴者を意識
- ・動画の作成を通じて、**情報活用と情報モラルを同時に学ぶ**

大人がリスクを教えていく情報モラル教育だけでよいのか？

(高校)

- ・具体的なリスクに対する思考方法を体験的に学習する
- ・既存の動画を批判的に分析し、新たな動画作成へつなげる
- ・生徒自らが情報モラルのトラブルに対して、
課題設定, 情報収集, 分析, まとめ(動画作成) → **探究活動**
- ・教科内容との橋渡しとして、本プロジェクトを活用
→ **教科内容が生徒にとって身近な課題に**

児童生徒が受け身として、「リスクを教えられる情報モラル教育」から、
「リスクを探究的に分析し、他者や社会へ働きかていく情報モラル教育」へ

東京都大田区立東糀谷小学校 眞保 先生

東京都上祖師谷中学校 池田 先生

静岡県立浜松江之島高等学校 可知 先生

本日は貴重なお話していただき

ありがとうございました!